

所得制限緩和すべきでは

問 岩沼市は、乳幼児医療費所得制限の限度額が近隣の市町より低い。子ども医療費助成制度の所得制限を緩和すべきと考えるがどうか。

市長 子ども医療費助成は、少子化が進行する中、重要な施策の一つと考えます。財政事情の厳しい中、一定以上の所得がある方は、応分の負担をお願いしています。子ども医療費助成の所得制限緩和については、「岩沼市まち・ひと・しごと創生総合戦略」の中においても施策の一環として重要な位置を占めており、今後、さらに検討を加えて対応しています。

問 平成27年4月から、子ども子育て支援新制度が施行されました。核家族化が進み、また男女共同参画時代を迎え社会の変化に伴い、多様なニーズがあります。待機児童解消のための取り組みはどのようになっているのか。

市長 今年4月から新しい制度が施行され、急ピッチで待機児童解消



子育て支援施策

佐藤 一郎

消に取り組んでいます。国の制度に追いつけないのが実態で、待機児童は若干います。全国的にも保育士の確保が難しい実態もあります。待機児童解消に向けて努力していきたいと思えます。

問 先日、岩沼みなみプラザフェスティバルを拝見した。参加した人の笑顔があふれ、この施設の良さを痛感した。

市長 新興住宅が増えている西部地区に地域子育て支援センターの設置を考えるべきと思うがどうか。

市長 岩沼市南部地区総合福祉プラザ「岩沼みなみプラザ」にさまざまな子育て支援の相談窓口やボランティア活動を支援するシステムをいち早く導入させて、大変評価をいただいています。地方創生では、子育て支援を大きな柱に据えています。将来の目標として、学区ごとに一つを目安に、子育て支援機能を備えていければと思います。

問 先日、市内の小学6年生の児童たちと意見交換をする機会があった。その際、野外で伸び伸びとサッカーなど球技ができる広場や公園を望んでいる声が多くあった。それらの場所の整備についてはどのように考えているのか。

総務部参事 これまで陸上競技場、朝日山公園野球場、テニスコート、グリーンピア岩沼の芝生公園整備を行ってきました。それらの既存施設の有効活用を考えています。

問 それらの中には、子どもたちだけで遊びに行けない制約もあるがどうか。

総務部参事 これまである程度の公園、スポーツ施設整備を行ってきたと考えています。子どもたちがそこまで通えるかどうか、今後の地方創生の在り方にもつながりますので、考えていきます。

ボールパーク整備しては

問 子どもたちが安心・安全に遊べる、過ごせる空間、広場、例えばボールパークの整備などを進めてはどうか。

総務部参事 市内の公園面積は県全体の平均を上回っています。岩沼市は公園の面積はある程度多いという状況です。

問 既存施設も面積もあるが、不審者問題もあり、子どもたちだけでは使えない現実がある。既存の運動施設、公園に子どもたちだけでも行けるような仕組みを市民の方々と協働でつくってはどうか。それもこの戦略の一つであり、狙えるところではないのか。

総務部参事 ご指摘を踏まえて、いろいろ考えたいと思います。

問 幼少期、青年期の遊びはその後の仕事や生き方、人間形成に大きな経験として生きてくる。岩沼っていいな、と感じながら暮らせる地域をつくるのも私たち大人の責任ではないのか。

市長 既存の施設が、大人の目が届かず使にくいというお話もありましたので、子どもたちが安心して遊べるような場所の提供に努めていきたいと思えます。



岩沼市まち・ひと・しごと創生総合戦略「子育て支援」

布田 恵美

一問一答方式による一般質問